配　布　資　料
教育庁生涯学習課

県立児童会館閉館後の利活用等について
―県生涯学習センターの機能強化に向けて―

背景

県生涯学習センターの現状と課題

・三学ぱるを構成する3施設が役割を果たし、幅広い年代層が参加しやすい場を提供
・様々な分野の機関･団体等とのネットワーク化の推進
・市町村の先進的なモデルとなる学習プログラムの開発

踏まえるべき社会情勢等

・科学や環境問題等に対する関心の高まり
・つながりや体験の機会の不足
・多様な主体との連携･協働の必要性

施設の立地、生涯学習を取り巻く社会情勢、新たなニーズ等を踏まえ、県生涯学習センターの一部として活用

未来科学棟（仮称）

未来につながる科学の学び･体験･交流の発信拠点

子どもたちを中心として、宇宙や地球環境、ものづくりの基盤技術や先端科学等も含め、広く科学に対する興味・関心、知的探究心等を高め、豊かな科学的素養を育成するための学び・体験・交流の発信拠点と位置付ける。

科学を通じた知の発信

親･子の学びの発信

世代を超えたつながりの発信

（事業の例）
・プラネタリウムや科学に関する全天周映像の投影
・科学教育講師、ジュニアリーダー等の養成・研修
・集光型太陽光発電システムなど周辺施設と連携した学習機会の提供
・県内企業等との連携によるものづくり基盤技術、先端科学等の企画展示
・親・子で楽しむ体験型科学教室等の実施（大学、ＮＰＯ等との協働）

※全県的なネットワーク、人材育成、プログラム開発などにより、広域性・先進性を確保

管理運営方針

・複数の民間の機関･団体等が連携･協働の体制を組む管理運営の在り方について検討
・先端科学技術、ものづくり、環境等の分野で全国的に優れた県内企業等との連携
・県の生涯学習関連施設や地域の公民館･民間施設など学習資源のネットワーク化
・学校等において、各教科･領域、行事等の中で積極的に活用されるよう工夫
・施設整備に当たっては、民間のノウハウと創意工夫によるアイデアを計画に反映